

小山田小

2024年11月29日

8号

町田市立小山田小学校

校長 小澤 新也

042(797)1824

<https://machida.schoolweb.ne.jp/1310200>

地域の特徴を活かし、子どもたちの個性や創造性を伸ばす

校長 小澤 新也

毎朝、子どもたちが登校する正門前の道から視線を上げると、竹林が目に入ります。小山田緑地に遠足に行った時にも、緑地内の雑木林の中に突然竹林を見つけることができました。これらの竹林の多くは、その土地に住んでいた人が意識して植えたものであると聞いたことがあります。

かつて、竹は人々の暮らしのすぐ近くに存在し、加工のしやすさや耐久性に優れた特性を生かし、生活に必要なものを生み出す素材として長く利用されてきました。背負籠（しょいかご）は竹で編んだ籠に背負いひもを付けたもの。農作物や農具などを入れて運びます。箍（たが）は木製の桶などの外側にはめて固定するもの。釜（うけ）は、割った竹を漏斗状に編んだ籠で、川底に沈ませうなぎやどじょうなどの魚を捕る漁具です。これらの言葉にはみな材質を表す竹が部首として入っています。箒（ざる）や箒（ほうき）なども同様、人々の生活と竹の結びつきの強さを感じます。

繰り返し切り出しても毎年春先には芽を出し、筍堀をしても次々と芽を出し、あっという間に成長する竹は、大変便利なものであったことでしょう。

以前は6年生が総合的な学習の一環で、竹を伐採し竹炭作りに挑戦していました。焼きあがった竹炭は毎年桜まつりで販売し、売上金を海外の子どもたちのためにと、国際交流につながる取り組みをしていた時期もありました。しかし、新型コロナウイルス流行や学校規模が縮小したことに伴い教育活動の見直しを行う中で、やむなく断念した経緯があります。

今も竹を使った学習活動は、4年生以上の児童がかかわる野外活動クラブの中で続いています。切り出した竹からコップや箸を作り、それを使ってお茶を飲んだりカップラーメンを食べたりします。毎年恒例の子どもたちが楽しみにしている活動です。

学年全員で取り組む竹を使ったものづくりや活動ができなかと考えていましたが、ようやく実現の運びとなりました。2学期から4～6年生の図工を時間講師としてご指導いただいている鎌田尚子先生の発案で、6年生が竹を使った家づくりに挑戦することになりました。鎌田先生が初めて小山田小学校に来校した際に、周囲の環境に感激し、造形活動を通して子どもたちに地域のよさを感じ取ってほしいとの願いの下、今回の取り組みにつながりました。

いよいよ作品展です。6年生が作った竹の家が、作品展にいらした皆様をお迎えます。自分の思いを形にした作品を通して成長を感じられる機会です。一人一人の努力や工夫、発想の豊かさを作品からお感じいただけたらと思います。自分の作品を多くの方に見ていただくことで、子どもたちは自分の頑張りが認められたと感じ、次への意欲に結び付きます。子どもたちも互いの作品をじっくり見ることで、様々な発想や表現に気付くことができます。「こんな表現があるのか」「おもしろいな」といった気付きが、子どもたちの視野を広げ、新たな挑戦のきっかけとなります。

お忙しいところ恐縮ですが、ぜひ足をお運びいただき、子どもたちの作品や造形活動について、ご家庭で話題にいただければ幸いです。

